

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○高橋 由紀 志水 朱 池森 康裕

【概要】

高齢者が住み慣れた地域社会で生活するために、多様な在宅介護サービスを理解するとともに、利用者のニーズについて理解する。

【学習目標】

1. 高齢者が安心して地域で生活するために、高齢者個人の生活ニーズが理解できる。
2. 環境が利用者に与える影響と、その効果について理解ができる。
3. 高齢者の在宅福祉サービスにおける現状と課題について理解できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	実習課題の共有化	前回の実習でのジレンマ体験をもとに各自の問題意識を明確化する。	高橋
2	実習先の理解	認知症高齢者グループホームの機能と役割を理解する。	高橋
3	実習先の理解	小規模多機能型居宅介護の機能と役割を理解する。	高橋
4	実習準備	実習個人表作成と実習課題の検討	高橋 志水 池森
5	実習準備	個人表作成と実習課題の検討	高橋 志水 池森
6	実習準備	個人表作成と実習課題の検討 事前訪問での注意事項	高橋 志水 池森
7	事前訪問	認知症高齢者グループホーム	高橋 志水 池森
8	事前訪問	小規模多機能型居宅介護	高橋 志水 池森
9	報告会参加	介護実習（4年生）報告会に参加し、学びの共有化を図る。	高橋 志水 池森
10	実習先の理解	事前訪問での指導をもとに実習課題の調整を行う。	高橋 志水 池森
11	実習の振り返り	課題の共有化 実習報告会準備（報告書作成）	高橋 志水 池森
12	実習の振り返り	実習報告会準備（報告書作成）	高橋 志水 池森
13	実習報告会	介護実習（1年生）・（3年生）・（4年生）協同実習報告	高橋 志水 池森
14	実習のまとめ	報告書作成	高橋 志水 池森
15	実習のまとめ	報告書作成	高橋 志水 池森

【評価方法】

学習態度30%、レポートなどの提出の有無30%、それらの内容評価40%とする。
なお、評価に関しては複数の実習担当教員の合議により行う。

【備考】

教科書：特に使用しない。

参考書：介護福祉士養成講座編集委員会（編）：最新・介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』中央法規 2019

その他：この科目は、介護福祉士国家試験受験資格取得のための領域「介護」の教育内容「介護総合演習」に該当する。

【学習の準備】

学生自身が暮らしている地域には、どのような認知症高齢者グループホームや小規模多機能型居宅介護があるのか、特徴を調べておくこと。

自身が調べた地域サービスは、演習で発表するので、各自ホームページ等で情報収集に努めておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.1.3.4

【実務経験】

高橋 由紀（介護福祉士） 志水 朱（社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士） 池森 康弘（介護福祉士・社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床および地域での介護分野の専門職としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。